

全 宗 協

Z E N S H U K Y O

金沢市で盛大に創立二十周年記念式典

石川県の谷本正憲知事も来賓として祝辞 百七十名が参加、全組合員に記念品の「組合員之章」を贈る

決意も新たにスタートラインに立つ——全宗協は本年度、創立二十周年という大きな節目の年を迎えた。その記念式典が五月二十二日、古都金沢市の「ホテル日航金沢」で盛大に執り行われた。式典には全国各地から百七十名の組合員が参加し、会場は熱気一色となった。石川県の谷本正憲知事、さらに中部経済産業局産業部課長補佐の出村嘉朗氏（日用品室長代理）が来賓として姿を見せ、祝辞を送った。式典では、二十周年記念品として、全組合員に「全日本宗教用具協同組合員之章」が贈られ、三百五十五名の組合員を代表して東純一氏（鹿児島県・川辺町の（株）お仏壇の千寿）に安田理事長から組員之章が授与された。



熱気があふれた創立二十周年記念式典

式典は通常総会と講演会に続き、午後四時から行われた。

内田長祐常任理事の開会の辞に続き、安田理事長が式辞を述べた。このあと来賓として出席した石川県の谷本正憲知事、中部経済産業局出村嘉朗氏が祝辞を送った。

安田理事長は式辞の中で、「二十周年を一つの節目として、なお一層の努力を重ね、社会に認められる権威ある組合を築き上げる所存です」と、新たな出発点に立っての決意を披瀝した。谷本知事は、「ご先祖を敬い、ご先祖の霊をなぐさめ、亡くなられた方々を偲ぶことは日本人の古来からの生活にしっかりと根ざしたものであり、皆

式 辞

本日ここに全日本宗教用具協同組合創立二十周年記念式典にあたりまして御来賓の石川県知事谷本様並びに中部経済産業局出村様に御臨席を賜り、また多くの組合員の皆様方に御参加頂き、誠に光栄とするところで心から感謝申し上げます。次第であります。

思えば昭和六十三年四月に三七七名の参加を得て設立されて以来、組合員のご努力とそれに支えられた先輩各理事長の類い希なりリーダーシップに改めて敬服致すものであります。初代の山田理事長におかれましては、組合法制化と今日の諸事業の礎を作られ、二代目の山中理事長は組織強化に努められ、また税制問題、業界正常化問題等に取り組み、平成九年には十周年記念行事も執り行われて

おられます。

この様なめざましい成果を引き継いだ私も、平成十二年以降、時代に即応した組合づくりの実現を目指してきたつもりであります。この二十周年を一つの節目として私共は尚一層の努力を重ね、社会にも認められる権威ある組合を築き上げる所存であります。

更に皆様のご協力を得て、次世代を担うヤングリーダーの育成にも励み、より質の高い業界をつくり上げたいと考えております。終わりに、ご多忙のなか御臨席賜りました皆様方には重ねて厚く御礼申し上げます。式辞とさせていただきます。

平成十九年五月二十二日
全日本宗教用具協同組合

理事長 安田松慶

紙面から

2面	来年の通常総会は東海地区で
3面	「家庭内の仏教」見直そう
4面	ひろば
5面	ひろば 「こんな仏壇あったらいいなコンテスト2008」
6面	仏事コーディネーター受験受付け
7面	そよ風
8面	頑張ってます



記念品の「全日本宗教用具協同組合員之章」が、壇上で代表の東純一氏(右)に贈られた

氏が壇上で受け取った。式典は井上芳徳副理事長の閉会の辞で、約三十分で終了したが、参加組合員の誰もが大きなエポックを迎えた中で、「あす」に向けての決意を新たにしていた。



組合員之章を手にした東純一氏



中部経済産業局の出村嘉朗氏

このあと、記念品として「全日本宗教用具協同組合員之章」が安田理事長から全組合員に贈られ、代表して東純一

様は大変に大事なものを扱っています。生活様式が変わり、消費者のニーズの変化にどう対応してゆくか。工夫があるところ

に未来は開けると思っています」と、業界の工夫と努力を訴えた。

「お仏壇俳句コンテスト」の主催については練り直し

来年度の通常総会は五月二十日に東海地区で

第二十回通常総会は五月二十二日、金沢市の「ホテル日航金沢」で午後一時から開かれ、平成十九年度事業計画などを満場一致で承認した。承認された事業計画は、事

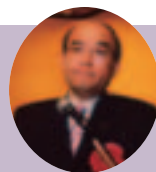
業方針として次のように述べている。「ここ数年の全宗協は、組織や事業面で大きく様変わりしつつある。年間二十五人を超える新規加入者にも若い世代

の台頭が目立ち、また、事業面でも政策提言委員会の答申を軸に、新しいものが次々に生まれている。ときに本年は、組合創立二十周年に当たる。これを機に「行動する全宗協」

としてより一層の事業展開を図っていくものとする」この事業方針に立って、二ユーリリーダー部の創設、会員増強、仏壇コンテストやインターネット及び仏壇フォーラム、品質表示並びに国産仏壇統一表示、仏事コーディネート

ター資格制度、商取引の正常化などについて、一層の取り組みを進めるとしている。総会に先立ち役員会が開かれ、この中では「こんな仏壇あったらいいなコンテスト2008」、「お仏壇俳句コンテスト」などが議題となった。

谷本正憲・石川県知事の祝辞 (要旨)



祝辞 石川県知事 谷本正憲 氏

創立二十周年記念式典をお祝い申し上げます。この金沢の地で開催していただいたことは地元知事として心から歓迎する次第です。能登半島地震に対しまして皆様の組合から義援金を頂戴いたしました。大変にありがとうございました。大変にありがとうございます。義援金は被災された方々の生活再建、住宅再建などに使わせていただきます。今回の地震では、お仏壇や仏具もかなり損傷を受けました。能登はお仏壇や仏具を大事にする気風が今も強く残っている地域ですが、損傷を受けたお仏壇や仏具の修復にはまだ手が回らないというのが率直なところです。

創立二十周年は、人間に例えれば成人式を迎えたこととなります。皆様の業界は長い歴史と伝統に裏打ちされた世界です。ご先祖を敬う、ご先祖の霊をなぐさめ、亡くなられた方々を偲ぶというのは、日本人の古来からの生活の中すっかりと根ざした生活様式です。皆様は大変に大事なものを扱っていることとなります。最近では生活様式が変わり、消費者の皆さんのニーズの変化にどう対応してゆくかは、どの業界でも課題となっていますが、工夫があるところに未来は開けるものと思います。工夫と努力の姿勢を失わず、皆様の業界が発展してゆくことを念願する次第です。

昭和14年(1939)	日本神仏具統制協会
昭和18年(1943)	(社)日本神仏具統制協会
昭和19年(1944)	全国神仏具統制組合
昭和22年(1947)	全国宗教用具商工業協同組合
昭和23年(1948)	宗教用具商工会
(昭和24年に中小企業等協同組合法が施行される)	
昭和26年(1951)	6月 日本宗教用具協同組合
昭和28年(1953)	10月 日本宗教用具懇話会
昭和54年(1979)	4月 全日本宗教用具組合連合会
昭和62年(1987)	10月26日 全日本宗教用具協同組合の創立総会
昭和62年(1987)	11月1日 認可申請
昭和63年(1988)	3月24日 全日本宗教用具協同組合が設立認可される
(設立認可時の組合員数は377人)	
昭和63年(1988)	4月20日 設立登記(成立日)し、現在に至る



「いのちの風景」と題し講演する
五木寛之氏

お仏壇俳句コンテストは、現在仏壇文化研究所（BBI）の主催で開かれており、本年度は第九回目の作品募集が行われ、近く入賞作品が発表されるが、来年からは全宗協の主催とすることが考えられている。この日の役員会では、全宗協主催には異論はほとんどなかったが、実施に当たって発生する費用をどうするかに論議が集まった。このため六月二十二日に京都で開催される役員会で、改めて計画を練り直すこととなった。

また役員会では、来年度の通常総会は五月二十日に東海地区で開くことが承認された。会場は未定で、今後、東海地区協議会が開催事務を進める。総会のあと講演会となり、金沢とかかわりの深い作家の五木寛之氏が「いのちの風景」と題し、釈尊の生涯をたどりながら、「林住期」のことや「気づき」ということなどについて語った。夜は懇親会が開かれ、「きれいだころ」による古都の踊りなどを楽しんだ。



通常総会



役員会

「家庭内の仏教のあり方を見直そう」

総会冒頭のあいさつで安田理事長



冒頭、あいさつに立った
安田理事長

今年は今全宗協が創立されて二十年目という節目の総会となりました。きょうの総会は、本年度の始まりですので、全宗協の本年度の施政方針といいますが、考えを皆様にお伝えしたいと思います。

このところ様々な事件が相次いであります。家庭内暴力はあっても、家庭内の

殺人というようなことは今までありませんでした。こうした社会をどう立て直すかは、私たち全宗協の大きなテーマ、課題であろうと思っています。私たちは出来る範囲で、この点について見直していかなければならないだろうと思います。

それは何かといいますと、家庭内の仏教のあり方を見直す必要があるということです。それを今後数年間のテーマとして取り上げていきたいと考えています。皆様にも私からの提案としてお考えいただきたいと思っています。

このところ、「三ばなれ現象」といいますか、「お寺ばなれ」「葬儀ばなれ」「お

墓ばなれ」ということが言われています。幸い「仏壇ばなれ」という言葉はこの中に入っておりませんが、しかし近い将来、「四ばなれ現象」ということになるかもしれません。

そこで考えなければならぬことは、これが「現象」なのか、「変化」なのかということ。現象は一過性のもので、必ず元に戻ります。変化は中長期にわたってじわじわ変わっていきますから、元に戻りません。私たちは現象なのか変化なのかを見極め、対応してゆく必要があります。現象であるとするなら、全宗協はいろいろな方策や事業、そして

皆様のご協力をいただいて、道を「是正」しなければなりません。

それにはどうすべきかですが、先ほども申し上げた「家庭内の仏教」のあり方をもう一度問い直すことだと思っています。宗教は道徳の「原点」であり、生きる姿勢を「補正」するものです。私たちは、家庭内で行われている日常的なことを次の世代に伝えていかなければなりません。他の業界ではなし得ないことを我々の業界はできます。

家庭内の仏教のあり方を見直そうというテーマに、皆様のお力添えをよろしく願います次第です。

金沢市内観光と懇親ゴルフを楽しむ

通常総会と全宗協創立20周年記念式典翌日の23日は、金沢市内観光のオプションツアーと懇親ゴルフがあり、古都金沢で日頃の疲れを癒した。

兼六公園、金沢城址、お茶屋街、そして金沢の味覚……。金沢市内観光は、盛夏を思わせるような暑さの中で“見どころ”を一巡した。当初は能登半島が計画されていたが、今回の地震で金沢市内だけのバス観光となったが、定員27人に対し直前になって2人が申し込み、2人は定員のオーバーで参加できなくなるというほどの盛況だった。

懇親ゴルフは、石川県能美市の白山カントリー倶楽部で行われ、23人が参加した。快晴に恵まれ、和気あいあいの懇親ゴルフとなった。

懇親ゴルフの上位者は次の通り。①吉田竹也トータル88、ネット71.20 ②河田栄治91、73.00③金田誠治85、73.00、ベストグロス賞福井正彦78



市内観光の金沢城址で



懇親ゴルフで上位に入った
右から河田、吉田、金田の3氏



兼六園で



和気あいあいだった懇親ゴルフ

ひろば

仏壇に関する想い

生活者の満足を埋められるか

富山県高岡市の(株)笠原昇雲堂 代表取締役社長 笠原他喜雄氏



笠原他喜雄氏

故人を敬う気持ちは誰しも持っています。その表現の仕方は様々ですが、現代生活においてもっとも生活者の満足を埋めることのできないもののひとつとして、仏壇が挙げられるのではないのでしょうか。

私の友人のことですが、祖母を亡くした時の実感で、仏壇に対する気持ちはあっても東京暮らしの実態に対して満足の出来るものを探そうと出来なかった。大きい、価格が高い、大袈裟すぎる、さらに住空間との整合性がない……。そして価格の差がありすぎて、何を信じてよいかわからず、商品が信用出来ないというのです。

この友人は今だに気にしながら買っていないという事です。現代調をことさらに強調した仏壇は市場でも見られますが、表面的なデザインに終始するだけで、彼の気持ちは届かなかったようです。

昨今、仏壇の売れ行きが思わしくないと聞きます。

戦争と平和、戦後と復興

三重県鈴鹿市の(株)佛庄総本店 代表取締役会長 川喜田保(豊成)氏



川喜田保氏

終戦前の昭和二十年六月・七月、鈴鹿市の三菱航空機製作所及び鈴鹿海軍工廠の軍関係の工場を空襲され、市内算所町及び柳町に着弾。各々三十数発の爆弾投下で各集落は大変な被害であった。一個の爆弾の穴は十メートル四方で深さは五メートルくらいあった。

八月十五日の終戦にて平和を取り戻し、やっと明るい社会となるが、各被害家族は大変な損害であった。

現代調、家具調と訴え、今の消費者のニーズに応えようと訴えたところで一時のことにすぎず、根本的な解決方法になっていないような気がします。

どこかの総理が「美しい国」を呼びかけています。国の根幹は国民、各家庭で成り立っています。美しい家庭が多くなれば、必然的に彼の想いは花開くのでは……。

しかし、今、家族(庭)の連帯が崩れようとしています。

この国にはかつて、どこの家にもランドマーク(目標目印)のような神聖な祈りの場、仏壇、神棚がありました。そこは緊張感のある清らかな場所でした。それがなくなったためではないのでしょうか。

仏壇のありかたを考え直す時期がきているように私には思えるのです。

た。家々も全・半壊し、仏壇もバラバラになった。

農家の人々が被弾した仏壇の数多くの部品をムシロ、モッコ、ゴザ等を集めてこれら、リヤカーにて店に持参されて、「どつしても復元してほしい」との強い要望に、父・庄太郎も感動し、修復を承知致しました。しかし、当時は材料物資が乏しく、代金はお金ではなく、当時貴重品の米での取引でありました。次から次へと六、七件修復いたしました。

全宗協、能登半島地震に義援金を送る

3月25日に発生した能登半島地震で、全宗協は4月6日に義援金として10万円を石川県に送るとともに、5月22日に金沢市で開かれた第20回通常総会でも、会場内に義援金箱を設け、総会参加者に支援を求めた。

総会参加の170人から多大な協力が得られ、集まった義援金は15万3683円にのぼった。全宗協の池田典明理事（金沢市の池田大仏堂代表取締役社長）と英津子夫人が組合を代表して北陸中日新聞を訪れ、義援金を手渡した。



全宗協からの義援金は、5月24日付の中日新聞朝刊紙上に池田理事と英津子夫人の写真入りで報じられた



通常総会会場には義援金箱が置かれ、支援を呼びかけた

『こんな仏壇あったらいいなコンテスト2008』

来年二月に開催、準備は着々と進む 全組合員と全国の四十一の関係団体に出品呼びかけ

「春の全国研修会」を併せて開催

全宗協が主催して来年二月に開かれる仏壇コンテスト『こんな仏壇あったらいいな2008』

一の仏壇関連団体に参加を呼びかける文書を配布するなど、着々と準備を進めている。

業団体中央会が後援予定となっている。仏壇文化研究所（BBI）などが協賛する。

への出品申込みが六月三十一日

コンテストは来年二月十三日（水）、十四日（木）の二日間、

最終日の十四日に会場内で表彰式が行われ、「こんな仏壇あったらいいな金賞」「同銀賞」

は出品予定本数を百本として

東京都千代田区丸の内「東京国際フォーラム」で開かれる

「審査員特別賞」「カスターマー賞」「全国仏壇店賞」「BBI

壇産地の組合など全国の四十

る。経済産業省、全国中小企

賞」「全国仏壇店賞」「BBI

搬出日は二月十四日。

宗協は初日の十三日に「春の全国研修会」を開くことになっている。

当時、小生二十歳。その姿に感動。戦争に敗れて、

落胆は大きかった。

神も仏もない、そんな時に貴重な食料の米を代金としての条件に、日本はやはり神・仏の国であり、先祖を大事にせねばならないと、小生考え方を変えた次第です。

親 兄弟、親類一同親族会議を開き、小生にどうしても後を継ぐよう皆に説得され、商船学校の夢は消えた。小生、九代目を継ぐ条件として、木工を機械化して能率向上を八代目の父に進言して了解を得たが、昭和二十三年三月、父の急死に遭い、混迷を極め苦勞の第一歩であった。しかし幸い、木工の機械化は父の死の前に完成をみた。これは全国ではほとんど例を見ないことだと思われます。

戦後私は、十一月に商船学校に戻る心積もりで、父の仕事を手伝っての日々であったが、昭和二十年十月の兄戦死の公報に接し、父、母の嘆き悲しむ姿は大変で、特に後継ぎの兄を頼っていたので、

たが、昭和二十三年三月、父の急死に遭い、混迷を極め苦勞の第一歩であった。しかし幸い、木工の機械化は父の死の前に完成をみた。これは全国ではほとんど例を見ないことだと思われます。

川喜田氏に 旭日小綬賞

三重県鈴鹿市の（株）佛庄総本店代表取締役会長・川喜田保（豊成）氏が、平成十九年春の叙勲で旭日小綬賞を受賞されました。五月九日に勲章伝達式があり、天皇陛下に拝詞

されました。川喜田氏は今年八十歳。鈴鹿市商工会議所会頭を経て、現在は名誉会頭の立場にあり、ます。閉鎖的だった仏壇店商法から近代化された明るい仏

壇店を目指し、仏壇業界と消費者との密接な融合をはかりました。さらには新しいデザインの新仏壇にいち早くアプローチするなど、多方面にわたる業績が高く評価されました。

賞」などが贈られる。審査は伝統工芸及び仏壇に詳しい有識者によって行われる。

伝統や文化に根ざした物づくりの素晴らしさを消費者にアピールし、需要を喚起しようというコンテストは、一昨年はBBIの主催で開かれた

応募作品は、概ね一年以内に製作された未発表の「金仏壇」「唐木仏壇」「都市型仏壇（家具調など）」「創作仏壇」となっている。出品料は作品1点につき

五万円（搬入搬出費用は含まず）。一企業（個人）あたりの出品本数は何本でもよく、制限していない。搬入日は二月十二日、

五万円（搬入搬出費用は含まず）。一企業（個人）あたりの出品本数は何本でもよく、制限していない。搬入日は二月十二日、

創立二十周年記念事業の一つとして位置づけられている。

このコンテストと併せ、全

宗協は初日の十三日に「春の全国研修会」を開くことにな

っている。

宗協は初日の十三日に「春の全国研修会」を開くことにな

っている。

宗協は初日の十三日に「春の全国研修会」を開くことにな



審査協会発行の「平成19年度受験のご案内」

受験申込み受付始まる＝5月22日、金沢市のホテル日航金沢での通常総会で

東京と大阪で11月14日(水)に実施 通常総会時から申込み受付はじまる

は除く)。年齢は満20歳以上(試験実施年の4月1日現在)。さらに同一事業所での宗教用具販売を含む実務経験を3年以上有するものとなっている。試験は昨年と同じく東京と大阪(会場未定)で行うことになっている。

試験は○×式と選択式の併用で行われるが、試験に先立ち今年も昨年と同様に講習が開かれる。講習は「仏教の基礎知識」「仏事(慶弔)に関する知識」「仏壇仏具の製品知識」「仏壇仏具の販売知識」「仏事コーディネーターの使命とところがまえ」の5つ。講習に出席したかどうかは資格認定の重要なポイントになるため、必ず受講することが必要だ。

講習は仏事コーディネーター検定用テキスト『仏壇仏具ガイド』を基に行われる。テキストの購入申込みは全宗協事務局で受け付けている。

仏事コーディネーターの有資格者は、これまでの3回の試験で1094人となっている。受験についての問い合わせは仏事コーディネーター資格審査協会(東京都中央区日本橋、TEL・FAX03-3665-1610)まで。

平成19年の仏事コーディネーター試験は11月14日(水)に行われるが、受験申込み受付が5月22日に金沢市で開かれた第20回通常総会時から始まった。申込期限は8月31日(当日消印有効)となっており、それまでに「資格審査受験申請書」などの必要書類を、所定の封筒で「仏事コーディネーター資格審査協会」(〒100-8692 東京中央郵便局私書箱867号)に申し込む。

仏事コーディネーター試験は平成16年に第1回試験が行われた。以来、毎年実施され、今年は第4回の試験となる。

受験資格は、仏壇仏具を販売する事業所を営営するもの、ならびにその従業員(パート、アルバイト、非常勤

ニューリーダー部 十月十八日に創立総会 奈良市での秋の全国研修会と併せて 満四十五歳未満の「部員」と 満六十歳未満の「協力部員」で構成へ



設立準備委員会の吉田光宏委員長

設けられた「設立準備委員会」(委員長 吉田光宏吉田治市商店専務)は、三月二十七日、五月九日の委員会での討議、さらには入会希望者に対してアンケートを実施するなどして規約づくりを進めてきた。

その結果、素案がまとまり、五月二十二日の金沢市での第二十回通常総会に併せて開かれた入会希望者の打合会で、大筋が了承された。

素案によると、名称は「ニューリーダー部」とし、部は満四十五歳未満の「部員」と満六十歳未満の「協力部員」で構成する。「部員」は全宗協組合員、または組合員事業所の後継者、「協力部員」は組合員または組合員の従事する事業所に勤務する者としている。年会費は「部員」が一万円、「協力部員」は五千円としている。

事業については①組合の事業に対する協力及び意見具申②業界及び国家の向上に寄与する事業③経営・技術等の向上を図るための各種講習会・研修会の開催④会員相互の親睦を図るための

第二十回通常総会と併せて開かれた入会希望者打合せ会。三十余名が出席し、熱心な討議が続いた



全宗協に新しく設けられることになった「ニューリーダー部」の創立総会

は、十月十八日に奈良市で開かれる秋の全国研修会に併せて開かれることが固まった。

ニューリーダー部立ち上げに向けて

秋の全国研修会は、法隆寺を拝観 10月18日、19日の1泊2日の合宿形式で

秋の全国研修会は10月18日、19日の1泊2日の日程で奈良市で開かれる。

昨年に続き、全国中小企業団体中央会の「活路開拓調査・実現化事業」の補助を受け、合宿形式で行われることになったもので、法隆寺拝観などが予定されている。

この研修会と併せて「ニューリーダー部」の設立総会も開催される運びだ。



見学が予定されている法隆寺

会合の開催⑤その他必要と認める事業、の五つをあげている。

設立準備委員会では、六月二十二日に京都で開かれる役員会に規約案を議題としてあげ、承認されれば正式な規約としてスタートさせ、併せて入会の正式な申込みを受け付けることにして

いる。

さらに八月二十八日、二十九日の両日、高野山の宿坊で入会者の集まりを開き、写経等の修行や討議を行う予定にしている。ニューリーダー部はいよいよスタートラインに着くこととなった。

●設立準備委員会

〔北海道・東北〕八田守立・小野健一朗〔関東甲信〕川本恭央・前田平八
〔北越〕竹澤恵子・木本結〔東海〕菱田康平・浅野秀浩〔京滋〕宮川知子・吉田
光宏〔委員長〕〔阪奈兵和〕濱田明彦〔中国〕山本浩章〔四国〕岸本耕三

そよ風

元氣宮崎から発信!!

宮崎市南町のおぶつだんのきむら

代表取締役 木村邦子



木村邦子さん

宮崎の地に、何とかお仏壇店として全国レベルで肩を並べることが出来、お客様にご満足いただきたい!! そんな願いを込め、平成十九年四月「さくら館」をオープンすることが出来ました。

敷地面積五百坪、延床面積七百坪の三階建てで、エレベーター及びエスカーレーターを完備、室内墓石展示場も設け、なんとか自分自身に納得のいくお仏壇店によろやくたどりつくことができたかな?と思っています。

近年信仰心が希薄となり、「ご先祖様への

感謝の心もどこかに失われそうにある現在、

お仏壇店に生まれ育った一人として「何とかせにゃいかん」と思う心を「さくら館」に詰め込んでみました。「単価減」に悩み、「小型化」に悩み、「地域性」に悩み……。

でも、悔やんでばかりはいられません。知恵と工夫、努力を重ねる中に何かが見えてきたように思えます。

事業に夢を持ち続け、「夢とロマンと成功を!」と念じながら、天職とこの「業」を思いつづけていきたいと思っています。お

陰様で後継者・社員に恵まれ、毎日楽しく

仕事に励んでいます。来年はいよいよ還暦です。振り返ればいろんな事を経験しての今日です。願わくば、仏壇業界が共に発展していけたらと思っています。

九州の宮崎の地から「元氣情報発信」です。東国原知事も頑張っているらしいです。全国の方々と交流を深め、「美しい日本」を。お仏壇というお寺の再現を、是非共に一軒一軒のお家に安置していけたらと願っています。

無料法律相談

森顧問弁護士が組合員からの電話あるいはFAXによる無料法律相談に応じます。ご希望の方は下記へ直接ご連絡ください。

森・吉村法律事務所

弁護士 森 恕 (はかる)
〒541-0043 大阪市中央区高麗橋1-5-14
メゾンドール高麗橋605

TEL 06-6222-3700
FAX 06-6232-0200



事務局からのお知らせ

●「協同組合法」の改正がありました。
 今回の改正は、組合運営の見直しと共催事業の健全性確保の2つの側面から行われ、本年4月から施行されました。
 当組合に関する主な改正点は、①決算関係書類及び事業報告書の作成・手続きの明確化②会計帳簿の10年間保存義務です。特に①については、総会招集通知の発出時に組合員に提供しなければならぬとされています。
 平成20年の第21回総会時に、定款変更の議案を提出する予定です。

●「消費生活製品安全法」に基づく製品0事業の報告・公表が制度化されました
 本年5月から施行されたもので、製造・輸入事業者に対して国への重大製品事故情報の報告が義務づけられました。
 事故・リコール情報に関する報告書については、所定の様式が定められています。

●緊急地震速報について
 本年3月の中央防災会議を受けて、政府は「緊急地震速報関係省庁連絡会議」を設置することとしました。
 地震時の各産業界等における人的被害や産業被害の軽減に繋がることが期待されています。詳細は気象庁のホームページをご覧ください。

「全宗協、大いに利用させて頂きます」

京滋地区からの報告 京滋地区協議会会長 小堀 賢一



小堀賢一氏

京滋地区の大きな特徴は、特に京都も彦根も伝統的な物作りを重視してきたことです。このことは、新しいデザインの仏壇や新規参入型の業者が登場してきた時に、特に波風が立ちやすい地区であると言えるかもしれません。
 「伝統派」と「新規派」も、お互いを敵視してしまえば、「先人の遺物に頼るだけ」対「伝統を踏まえたい」というように攻撃姿勢をとるでしょう。こうなると業界全体としては決して好ましくありません。
 ところで今、全宗協は組合員の皆様もご承知の通り、大きく変わりつつあります。もともとは「伝統派」色の強い団体でしたが、「新規派」を巻き込みつつあります。業界唯一の全国組織の協同組合ですから、包括性は欠かせないと思います。変化の最中ですから波風が立って当たり前。むしろ波風を立てても改革するチャンスだと思います。
 私が全宗協で得ることのできるベストのものは、包括性があることによって、業界全体の情報が得られることです。自社の情報は僅かですし、地区の情報にどうしても偏りがあります。経営者なら業界全体の情報を集積し、正視することが大切であると思います。全宗協を大いに利用させて頂いています。

新規加入の皆さん (6月1日付)	氏名	所属	住所
羽田 大	(株)ふくば	福島市鎌田字中田10-8	
亀井崇幸	(株)亀井しずお仏具店	栃木県日光市森友1110	
山下光彦	(有)山下神仏具店	東京都練馬区下石神井6-43-15	
大木原治	お仏壇の大木原	和歌山県田辺市湊1133	
大越則夫	大越仏壇製造(有)	富山県高岡市福岡町下老子736	

訃 報				
地区	ご逝去	組合員名	ご逝去日	享年
九州地区	ご尊父 登様	高口ツヤ子 高口仏具店	19年4月1日	85歳
関東甲信地区	ご本人 絃一様	今村絃一 今村佛具店	19年4月28日	68歳
北越地区	ご母堂 トヨ様	橋本清治 (株)ハシモト清	19年4月29日	88歳
東海地区	ご母堂 きぬ様	米坂三千男 (有)三千堂	19年5月16日	102歳

編集後記

▽三月の能登半島地震は、人的にも多大な惨禍を出した。被災者の方々のご苦労は想像にあまりある。一日も早く、平穏な日常が戻ることを願ってやまない。幸い仏壇店は全壊するなどの被害は免れたが、各家庭では仏壇が損傷するなどの被害がでた。能登半島は、家の次に仏壇を大事にする地域である。仏壇店に「直してほしい」と持ち込んだ人たちも多いと聞く。
 ▽仏壇店では、棚に並べていた位牌や本尊などは落ちたりしたが、仏壇が倒れ欠損するという被害はほとんどなかった。なぜなのか。七尾仏壇で知られる能登半島東部の七尾市の仏壇店社長は、こう話した。「車のついた台車に乗せていたため、揺れても台が動いただけで、仏壇は助かりました」
 ▽この話を聞いて、なるほどな、と思った。いうならば知恵が勝ったといえようか。地震対策は多くの業界が課題の一つとして取り組んでいる。日本石材産業協会(石産協)では、専門家らと一緒に「チームを作り、「地震に強いお墓づくり」を研究している。
 ▽この十月にも、全宗協に新しく創設されることになったニューリーダー部がスタートする。新しい若さがある部はどんな事業に取り組むのか。その活動を今から注目しているが、この国は地震列島である。「地震とお仏壇対策」というテーマが一つ考えられてもよいのではないだろうか。そんな思いもする。